

## 奥原晴湖 女史の生涯とあしあと

晴湖を偲ぶ会 会長 稲村義雄

### (1) 古河・東京時代 (江戸末期～明 24)

天保 8 年 (1837) 古河「池田家」に生まれ、幼少の頃から絵を好み、学問など鷹見泉石、絵は牧田水石に学びました。

元治 2 年 (1865) 29 歳のとき、画家として身を立てるため、奥原家の養女となって江戸に出ます。上野の下谷に居を構え、多くの文人墨客と交流、山内容堂、木戸孝允の知遇を受け、南画家として一躍有名になりました。そして、自らの感性と努力により豪放闊達な画法 (東海がき) を樹立、一時は三百人以上の塾生をも数え隆盛を極めました (明 10 前後)。しかし、明治 15 年頃を境に南画界も衰退し、画室が鉄道用地となり、これを機に、明治 24 年 55 歳の時、熊谷 (上川上・「稲村家」) に移り住みました。

この上川上村は、旧幕藩体制時代古河領で稲村家は、当時名主を務めており、池田家とは親しい間柄にありました。そんな関係で、幕末動乱期には戦禍をを避けるため稲村家の隠居所に仮寓していたことがありました (約 2 ヶ月)。

この時期 (慶応 4 年) に荻野吟子は、寛一郎と結婚したことにより、偶然「晴湖」と知り合ったのであります。その後、晴湖のお世話で上京、種々の困難を乗り越え、日本最初の女医となりました (明治 18)。

### (2) 熊谷時代 (明 24～大 2)

晴湖は、上川上に画室付きの住宅「繡佛草堂」を建て、弟子の晴嵐と共に画業一筋悠々自適の生活を送りました。古河が修養時代、東京が活躍時代とすると、熊谷は正に完成時代でありました。明治 30 年前後には、晴嵐と一緒に長期 (3 ヶ月以上) にわたり、北越方面松島、東北方面、関西方面と旅をしながら画業に励まれました。30 年中頃からは、揮毫依頼や訪問客が多くなり、夜になっても筆をとるといふほどでした。45 年頃からは、健康を害し、気の向くままの制作となりましたが、大正初期になってからも描き続け、傑作を残し、大正 2 年 (1913) 7 月弟子達に見守られながら 77 歳の生涯を閉じました。

熊谷時代の作品は、東京時代の豪放な筆致から一変して、精緻な着色密画が多くなりました。晴湖の 5,000 点からの代表作は殆ど、上川上の画室「繡水草堂」 (元繡佛草堂) で描かれました。

### (3) 業績のあしあと

- ①成田 (上之) の龍淵寺には墓と顕彰碑が建てられており、墓は埼玉県文化財に指定されております。

②「奥原晴湖展」開催 古河歴史博物館（平 22・3/20～5/5）

晴湖没後、上川上にあった画室の一部は、古河池田家の屋敷地内に移築されましたが、このほど、ご子孫から古河市に寄贈され、市は歴史博物館の南側に改修移築しました。本展は、これを記念し、熊谷時代の作品を中心に、晴湖の画業を紹介したものです。

③上川上の画室跡地には、「終焉の地」の標柱が建てられ、玄関に通じていた「晴湖の道」が再現されています。

④晴湖の名は、人物辞典・広辞苑等に記載され、成田小学校校歌、地域の民謡にも歌われています。

⑤晴湖に関する文献、刊行物は、数多く出版されています。



「晴湖の道」



「標柱 奥原晴湖終演の地」

（熊谷市公連だより 第9号 平成22年より）